

・ 国際会議報告	・ 編集委員会からのお知らせ
・ 「国際シミュレーション&ゲーミング学会」大会のお知らせ	・ 大会実行委員会からのお知らせ
	・ 事務局からのお知らせ

・ 国際会議報告

New Directions in the Foundation of Physics (於メリーランド州カレッジパーク)

坂本秀人(メリーランド大学)

昨年5月3日より3日間の日程で、米国メリーランド州にある American Institute of Physics において、「物理学基礎論の新しい方向性」とタイトルされた国際会議が開催された。この会は、メリーランド大学哲学科教授 Jeffery Bub によって毎年夏に開催されているもので、主に英語圏の国に在住する物理学、物理哲学などの専門家によって組織されている。今回は例年になく100人前後が参加するという大規模なものとなった。参加者の中には、D. Albert, L. Smolin, M. Dickson, S. Savitt など、この分野の第一人者も多く、彼らの最新の研究成果を聞こうと、各大学の大学院生も多く集まってきた。

会議は、五つのセッションに分かれており、それぞれ、1. Foundation of Quantum Mechanics 2. Quantum Information and Computation 3. Foundation of Space-Time Theories 4. New Approaches to Quantum Gravity 5. Foundation of Statistical Physics をテーマにしたプレゼンテーションが行われた。会議自体は「物理学基礎論」と銘打っており、セッションは物理学の哲学の議題を広範にカバーしたものとなっているが、オーガナイザーである Bub 教授の影響は明白で、議論は主に量子力学の解釈問題を中心に展開することとなった。

全体的な印象としては、「Einstein-Bohr 論争」がいまもって議論の根底によこたわっているという一面と、そうした過去の遺産をこれまでとは違った視点からとらえなおそうという斬新な面の両面をもっていたように見えた。Bub と Clifton (この会議の直後、癌のために他界された。ご冥福をお祈りしたい。)が「量子力学の情報理論化」をとえコペンハーゲン解釈への回帰を宣言したのに対して、Smolin が「新しいタイプの隠れた変数理論」を提唱する議論を展開し、その意味でそれは伝統的な「Einstein-Bohr 論争」そのもの

であり、Smolin が Bub に対して「Information about what?」とつめよった場面は、かつて Einstein が Bohr に対して、「量子力学は何についての理論なのか?」と問いただした場面と重なって見えた。しかし、こうした本質的な議論は変わっていないものの、量子力学の情報化という視点はまったく新しいもので、現場ではすでに理論整備に向けた動きが具体的になっており、若手研究者の間ではすでに詳細な研究が進んでいるという報告があった。情報化の方は、量子論をヒルベルト空間ではなく、より一般的な C\* 環システムで記述するという試みに入っている。一方の隠れた変数派は、Nelson の隠れた変数理論を持ち出している。一風変わった Albert の発表は時間非対称性と認識論の再考をテーマにしていたが、熱力学的エントロピーと情報エントロピーを結び付けるべきではないとし、かつての Landauer らの主張を批判している。ここでも「情報」の概念をめぐり激しく議論が交わされた。

全体を通して、Bub, Smolin, Albert の三人が、三つ巴をなし中心的に議論を進めていた感がある。Bub, Smolin が上記のように、相対峙する伝統的な二つの哲学的見解に立った、新しい視野をそれぞれ展開したのに対して、Albert は両者に対して等しく痛烈な批判を浴びせるという役にまわっていた。まず、Bub の情報化に対しては、「物理理論が情報の理論であるというのは新奇なものではなく、それは古典論にもあてはまる。」という批判を加えた。この質問に対して、Bub は、幾分弱気で、曖昧な返答しかしていなかった。一方 Smolin の「隠れた変数派」に対して、Albert は、「新しい隠れた変数理論が整合的であるというのはいいが、Bohm の隠れた変数ではなく、あえて、その新しい理論をたてる利点や理由が明確でない。」という批判を与えている。

会議初日の夜はワシントンDCのBub邸でオープンハウスのパーティーが催され、50人近い人間が小さな家に集まり、部屋の中から、庭まで人であふれかえっていた。Bub夫人が大量のローストチキンや、風変わりなエスニック料理などを提供し、学生、教授を問わずあちこちで雑談や議論する姿が見られ、皆、このアットホームな懇親会を大いに楽しんでいる様子であった。夜半には無尽蔵にある酒を飲みすぎ、妙な話題で盛り上がる一団も見られた。5日の午後、連日8時間

にわたるセッションを終えると、さすがに参加者の顔には疲れが見られ、皆何か重いものをひきずるような様子で各自帰路についた。

総じて、量子力学の哲学がこれまでの長い歴史の一端にあることを再認識させられるとともに、その歴史の一端が、違う方向性をもって開花しようとしているような漠然とした期待感が残った。そしてこの漠然としたものは、「情報」という概念をめぐる現場の混乱と、概念そのものもっている曖昧さから来るものなのかもしれない。

## 「国際シミュレーション&ゲーミング学会」大会のお知らせ

日本科学哲学学会が後援する「第34回国際シミュレーション&ゲーミング学会大会 (ISAGA2003)」が、本年8月に開催されます。以下は、同学会によるこの大会のアナウンスメントです。

### 【第34回国際シミュレーション&ゲーミング学会大会 (ISAGA2003)のご案内】

国際シミュレーション&ゲーミング学会 (International Simulation and Gaming Association, ISAGA) は毎年、シミュレーションおよびゲーミング研究の成果を共有するとともに、研究者、教育実践家、実務家の世界的交流を目的として、世界各地で大会を開催しております。来年2003年の大会は、日本学術会議と日本シミュレーション&ゲーミング学会 (Japan Association of Simulation and Gaming, JASAG) がホストとなり、以下の次第で開催する予定でございます。

多くの方々のご参加を賜れば誠に幸いに存じております。

## 記

### (1) テーマ

「シミュレーション&ゲーミングの社会的貢献と責任」

### (2) 本会が扱う研究領域

シミュレーション&ゲーミングないしそれに関連するあらゆる領域の研究。例えば、意思決定、政策研究、社会計画、教育と学習、経験学習の実践と理論、葛藤解決、社会問題に対する計算的アプローチ、エージェント・ベースト・シミュレーション、進化と社会、開発研究、コミュニケーション、ビジネスと組織、仮想チームワーク、知識管理、ゲーム・デザイン、エンターテインメントなどの領域が含まれます。

### (3) 開催日

2003年8月25日(月)～8月29日(金)

### (4) 場所

かずさアカデミアパーク(千葉県木更津市) <http://www.kap.co.jp/>

Tel 0438-20-5555 Fax 0438-20-5139

### (5) 言語

英語。ただし、基調セッションにおいては、同時通訳によって日本語も使われます。

### (6) 参加費

会員 3万円 非会員 4万円

シニア 2万円 学生 1万円 一日のみの参加 1万円

なお、日本科学哲学学会は、ISAGA2003の後援学会であるため、その会員は、上記の会員扱いとなります。

(7) 論文発表の申し込み

英文のサマリー(350ワード以下)を、論文のタイトル、著者名、所属、住所、電子メールアドレス、電話番号、Fax番号とともに、電子メールでお送り下さい。

締め切り:2003年4月1日 送り先:secretary@isaga2003.org

(8) セッション企画の申し込み

シンポジウム、ワークショップ、ゲームの実演などの企画を受け付けます。論文を公募することも可能です。企画の内容を、企画のタイトル、企画者名、所属、住所、電子メールアドレス、電話番号、Fax番号とともに、電子メールでお送り下さい。

締め切り:2003年2月1日 送り先:secretary@isaga2003.org

(9) 図書の刊行

申し込まれた論文やセッションに関する日程は次の通りです。

セッション企画申し込みの締め切り	2003年2月1日
セッション企画の採択通知	2003年2月15日まで
論文発表申し込みの締め切り	2003年4月1日
論文発表の採択通知	2003年5月1日まで
最終原稿の提出締め切り	2003年6月1日

最終原稿は、5000ワードを超えないもので、著者名、所属、連絡先の記入が必要です。フォームについては、ウェブページから入手できるように致します。ISAGA2003の1年後、国際的に著名な出版社から、ハードカバーの図書として論文集を刊行する予定です。そのため、ISAGA2003の後、論文を修正していただき、2003年10月20日までに再提出していただきます。

(10) 賞

6月1日までに提出された最終原稿に基づき、優れた論文には、ISAGA本部の委員会による審査を経て、賞が与えられます。

(11) ウェブページ

ISAGA2003のURLは以下の通りです。

<http://www.isaga2003.org/>

また、日本学術会議のサイトにも説明があります。

<http://www.soc.nii.ac.jp/aos/Taikai/symposium/gakusyn2003825.htm>

(12) 連絡先

ISAGA2003 組織委員会

〒223-0062 神奈川県横浜市港北区日吉本町 1-4-24

科学技術融合振興財団(FOST)内

Tel: (045)562-5447 Fax: (045)562-6132

Email: secretary@jasag.org URL: <http://www.gamism.com/~jasag/secretary/>

・編集委員会からのお知らせ

編集委員長 奥雅博

1. 『科学哲学』の発行時期について

これまで『科学哲学』は、各巻、1号は5月、2号は11月に発行してきましたが、今年の36巻から、1号は7月、2号は12月に発行することといたしました。その理由は、科学研究費補助金の出版助成を受けられるかどうかによって製作方法を変えねばならず(受けられれば版下作成から印刷所に依頼、受けられなければDTP)、しかもその決定が4月以降であるため、それを待ってから製作作業に入る必要がある、ということです。この変更により、従来11月の大会会場でお渡ししていた2号も、1号と同様、郵送でお届けすることになります。ご承知おき下さい。

2. 『科学哲学』36巻2号(2003年12月発行予定)の特集テーマについて

『科学哲学』36巻2号の特集テーマを「ラッセルのパラドックス100年」とし、このテーマにふさわしい内容の論文を募集いたします。会員の皆さまには、奮ってご応募下さい。

締切期日:2003年6月6日(事務局必着)

『科学哲学』35巻2号掲載の「論文応募要領」を参照の上御投稿下さい。

3. 自由応募論文について

自由応募論文は常時受け付けています。なお「論文応募要領」3にある通り、論文本体(これはレフェリーに転送されることとなります)には論文タイトル(日本語と英語)と英文要旨のみを付けることとし、著者氏名と所属については、別に添付した表紙に記して下さいようお願い申し上げます。

・大会実行委員会からのお知らせ

大会実行委員長 清水義夫

日本科学哲学会第36回大会を下記の要領で開催致します。

記

期日:2003年11月15日(土)・16日(日)

場所:千葉工業大学・津田沼キャンパス

シンポジウムのテーマについてご意見・御希望がございましたら、3月20日までに事務局宛御連絡下さい。

ワークショップについての具体的な企画、あるいはテーマについての御希望がございましたら、3月20日までに事務局宛御連絡下さい。

研究発表の申し込み締め切り期日は、9月1日です。

・事務局からのお知らせ

1. 事務局宛て郵便物の宛名について

事務局のある東京都立大学の郵便番号(192-0397)は「事業所コード」といって、都立大学専用の郵便番号です。したがって、この郵便番号が正確に書いてあれば、住所を書いていただく必要はありません。念のため、お知らせいたします。

2. ホームページのURLについて

前号のニューズレターにも掲載いたしました、日本科学哲学会(PSSJ)のホームページのURLは以下の通りです。今後、雑誌、ニューズレター等、本学会の発行物にも必ず奥付などに記載するつもりです。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>

〒192-0397 東京都立大学人文学部哲学科内 日本科学哲学会事務局

fax. 0426-77-2073 (「日本科学哲学会」宛であることを明記して下さい。)

e-mail: philsci@comp.metro-u.ac.jp URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>